

SONY

Cloud SDK Deserialize サンプル機能仕様書

Version 0.1.0

2022 - 11 - 10

Table of Contents (目次)

更新履歴	1
はじめに	2
用語・略語	3
参照資料	4
想定ユースケース	5
機能概要、アルゴリズム	6
操作性仕様、画面仕様	7
各BlockでのAPIパラメータ	8
目標性能	9
制限事項	10
その他特記事項	11
未決定事項	12

更新履歴

Date	What/Why
2022/11/10	初版作成

はじめに

- ◆ 本書は、ユーザーに提供するDeserialize用のサンプルコード機能仕様書である。
環境はPython/TypeScriptを対象とする。
AIモデルはObject Detection/Classificationに対応する。
なお、本環境下においてSerializeおよびDeserializeはFlatBuffersを利用していることとする。

用語・略語

Terms/Abbreviations	Meaning
FlatBuffers	Google製のバイナリシリアライズフォーマット
FBSファイル	FlatBuffers用のデータ構造を定義するファイル

参照資料

◆ 無し

想定ユースケース

- ◆ Serializeされた推論結果を復元して利用できる。
 - ◆ ユーザーはサンプルを実行することで、既存フォーマットの推論結果をDeserializeし取得できる。
 - ◆ ユーザーはサンプルコードとドキュメントを参考にすることで、独自に定義した推論結果フォーマットに対してのDeserialize用コード生成と実行方法を理解できる。

機能概要、アルゴリズム

Functional Overview

- ◆ Serializeされた推論結果を復元する。

Algorithm

- ◆ FBSファイルを元に生成されたコードを使い、データをDeserializeする。

Under what condition

- ◆ Linux環境があること。
 - ◆ Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
 - ◆ 開発時はDockerを利用し、Ubuntu 20.04のコンテナ環境にて実施する。
- ◆ コードの自動生成時に使用する「FlatBuffers-compiler」のバージョンは1.11.0とする。
- ◆ データのSerialize用コードを生成したFBSファイルを所持していること。
 - ◆ Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
 - ◆ Serialize時とオブジェクトの定義が共通している必要がある。

API

- ◆ 無し

Others Exclusive conditions / specifications

- ◆ 無し

操作性仕様、画面仕様

How to start

◆ 無し

各BlockでのAPIパラメータ

◆ 無し

目標性能

◆ 無し

制限事項

- ◆ 利用するDeserializeコードと入力したAIタスク出力結果が一致しているか判別することができない。
(例 Object Detectionの出力結果をClassificationのDeserializeコードに入力してもエラーが起きない。)

その他特記事項

◆ 無し

未決定事項

◆ 無し